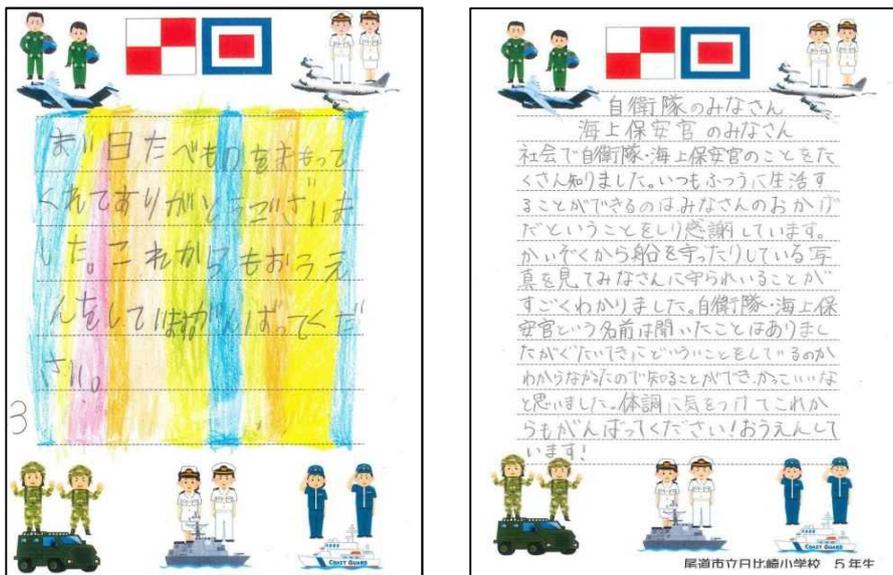


## ジブチ共和国へ派遣された自衛隊員・海上保安官と尾道市内の小学生が交流 ～海賊対処行動に従事する海族（海に関わる家族）へ感謝～

当協会は日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を学校教育において取り上げていただくよう、出前授業、本船見学会、乗組員との交流をはじめとする体験型の催しや海事産業を紹介する資料の提供など各種広報活動に取り組んでおります。

この度、尾道市立日比崎小学校の児童が、日本から遠く離れたジブチ共和国にて、酷暑等厳しい環境下で海賊対処行動に従事する自衛隊員・海上保安官に対し感謝の手紙を送付したところ、現地隊員・保安官より御礼の手紙や写真等が同校へ返信され、手紙を通じた交流が図られましたのでお知らせいたします。同校からの手紙を受領した現地隊員・保安官は感激し、任務への励みとなっている他、国内の防衛省や海上保安庁の職員にも共有され士気高揚につながったとの事です。

日比崎小学校の児童たちは、自分たちが書いた手紙が海を越えてジブチ拠点の自衛隊員や海上保安官へ届くことは理解できていても、実際には実感として捉えられていなかったため、驚きと共に、大きな喜びとなった様です。返事をももらったことで、自分たちの学習に本当の意味での意義を見だし広く世界を見る活きた学習となったとの事です。



日比崎小学校から送付された手紙



現地の隊員・保安官からの手紙と写真

感謝の手紙を贈るきっかけは、本年3月に同校1年生と5年生を対象に、海賊対処行動や海運を取り上げた社会科授業が、同校の村上忠君教諭より実施されたことによります。\*（当該授業実践に先立ち広島大学教育学部にて当該授業実践の狙いと進め方について研究報告がなされております）



授業をする村上教諭（左）と海運についての説明をする友田副会長（右）

その授業で児童たちは、“私たちの当たり前の生活は物流を担う海運や安全運航を支援する自衛隊・海上保安庁等多くの「海の家族—海族」に支えられている”ことに気付き、その感謝の想いを伝えるべく自発的に手紙を作成したとのことです。同授業の実践にあたり、当協会は資料提供などの協力を行うとともに、当

日は友田副会長も参加し世界と日本をつなぐ海運の役割とそこで働く人々・安全航行を支援する人々について児童の理解促進に努めました。児童からは「暮らしを支えてくれてありがとう」と言った声が多く聞かれました。

この他、広島県三原市の広島大学附属三原小学校においても、コロナ禍による船員交代の停滞を背景とした長期連続乗船という厳しい状況下でも物流を止めないための輸送に従事した船員や、今回同様ジブチで活動する自衛隊員・海上保安官に対し感謝の手紙を送付、何れも現地派遣隊員の写真が付いたメッセージの返礼があり、最前線で働く人々と児童の継続的な交流が実現しています。\*\*\*

当協会は今後とも海事教育が学校授業でより多く取り上げられるよう、各種活動を進めるとともに、より多くの児童へ海運をはじめとした海事関係者との交流機会を創出できるよう注力して参ります。

以上

※詳細は当協会 3 月 15 日付、以下レポートをご参照下さい。

<https://www.jsanet.or.jp/report/pdf/r20230315.pdf>

\*\*\*ご参考：船員さんへの感謝のメッセージ（当協会 YouTube）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLhosBKjGGXT1wBSUu6jrR8gQTYF-tHNGI>